FUKUI NATURE GUIDE 第13号

森遊

Vol.5(2) 1994

ニホンイモリ（アカハライモリ）

ブナの原生林に囲まれ、神秘的なたたずまいを見せている夜叉ケ池。金色の光の中にイモリがいます。いつの時代に、どのようにしてこの池の主になったのでしょうか。

初夏に、ふ化したばかりのモリアオガエルのオタマジャクシをイモリが食べる光景は、食物連鎖という自然界の厳しさをまざまざと見せつけてくれます。

福井県自然保護センター

福井県

狩人蜂の生態

文・写真　室田　忠男（丹生高等学校教諭）

狩人蜂は、自分の仔虫の食物として昆虫やクモを狩る蜂です。蜂の種類によって捕らえる獲物が大体決まっていて、分類上近縁の数種、時にはただ１種だけを選ぶ習性を持っています。

蜂の行動様式は、造巣・狩猟・産卵行動に大別されますが、種やグループによって、これらの順番が異なります。ここでは、福井県産の狩人蜂の生態の一端を写真で紹介します。

①ベッコウバチ

毒針で麻酔した獲物のクモを草に引っかけ、その下でじっと薄暗くなるのを待ちます。時々、触角で獲物に触れ、存在の確認をします。行動様式は、狩猟→造巣→産卵→育房の閉鎖の順です。造巣以後の活動は、薄暗くなってから行われます。

（芦原町富津　1994．7．17）

②フジジガバチ

獲物の第４環節を大がくでくわえ、腹合わせにして前脚でこれを支えて、巣に向かってほぼ一直線に疾走します。行動様式は、造巣→狩猟→産卵→育房の閉鎖の順です。

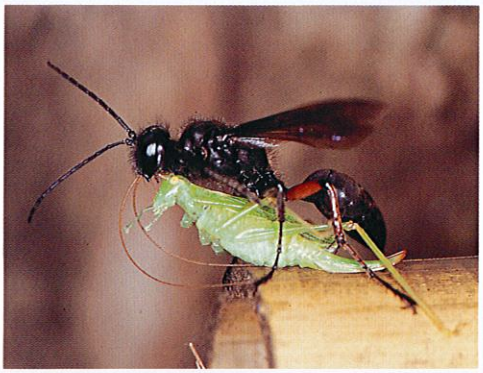
（芦原町富津　1993．7．25）

③クロアナバチ

獲物はクサキリやツユムシです。国道に隣接する公園の盛土に植えられた小さなトベラの下にコロニーがあります。行動様式は、造巣→狩猟→産卵→（狩猟）→育房の閉鎖の順です。（狩猟）は何回かくり返されます。（越前町高佐　1994．8．1）

④アルマンアナバチ

写真の竹筒につくられた完成された巣には、35頭の獲物に9個産卵され、別の未完成の巣には、9頭の獲物に7個産卵されていました。前者の巣は、一部共食いが見られました。1個の育房で数匹の幼虫を育てるのは、アナバチの中で本種だけです。行動様式は、造巣→（狩猟→産卵）→育房の閉鎖の順です。（狩猟→産卵）は何回かくり返されます。（池田町田代　1992．8．15）



⑤キアシハナダカバチモドキ

1989年以後、美麗珍種である本種の造巣地は、県内で発見されておりません。獲物は、イボバッタやオンブバッタです。行動様式は、クロアナバチと同じです。

（福井市三里浜　1989．8．15）

⑥ハナダカバチ

本種は、焼け付くような砂地を好んで造巣地に選びます。天敵のアリや寄生バエから少しでも巣を守ろうとするのでしょう。獲物は、ハエ、ハナアブの仲間です。行動様式はクロアナバチと同じですが、運び入れる獲物の数が多いことや狩猟の時間間隔が長いので、母ハチがその育房を完成して封じるまでに卵はふ化して、育房での母ハチと幼虫の接触が生じます。母ハチの狩猟・運搬行動は、貯食というより給食といえるわけです。砂ハチの中で最も進化したハチです。　（芦原町富津　1994．7．22）

⑦フクイアナバチ　（左：獲物運搬　　右：獲物への麻酔行動）

本種の分布地は、県外では京都府松尾寺と岡山県だけで、福井県特産の大型アナバチといってよいでしょう。獲物は、ハネナシコロギスただ1種です。行動様式は、クロアナバチと同じです。　（福井市大安寺町　1994．7．27〈右〉、1994．8．4〈左〉）

久々子湖の秋

トウネン（冬羽）

文・写真　上木　泰男（日本鳥類保護連盟専門委員）

1964年12月の始めごろだったと記憶しているが、三方五湖に出かけた。その後、この湖の魅力にとりつかれて、もう30年かよいつめたことになる。中でも私にとって久々子湖が忘れ得ぬ存在になっている。当時、カモの種類の多さに感激したものであった。四季を通じて素晴らしい湖だが、私にとっては秋～初冬までの期間が最も魅力的に思える。

1977年ごろをさかいに、湖の環境は一変してきており、それにともなって、鳥の姿はめっきり減少してしまった。主な原因には、湖岸周辺からアシ原がほとんど消えてしまったことにある。近年、慢性的な発生となったアオコによりどれだけの魚類や小動物たちが死んでいったことか。湖水の浄化にアシの群落のもつ意味が再認識されて、その再利用が見直されてきている。また、岸辺はコンクリートで護岸され、数多い波消し用のブロックが、やたら目につく。人間と自然との調和をはかるべく、画一的な方法でなく、もっときめの細かい施策が必要なころだと思うのだが……

メダイチドリ（冬羽）

少々前置きが長くなってしまったが、やはり今も県内では有数の自然が残されている名勝地には違いない。

冬期のカモについては有名だが、意外に知られていないのが秋の渡りの時期である。湖岸に残された林、森には多種類の鳥が姿を見せる。アリスイ、コヨシキリ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マミチャジナイの群れなど

自然大好き――

ナチュラリスト通信

ナゾの白い花

今年のゴールデンウイークごろのことです。郊外の道ばたで、たくさんの白い小さな花をつけている野草が、ひじょうに多く目につきました。セリの仲間のようですが、場所によって少しずつ種類が異なるようです。葉の形と花の形からざっと見分けたところ、3種類あるようです。ただ、手持ちの図鑑では、いずれの種も特定できませんでした。

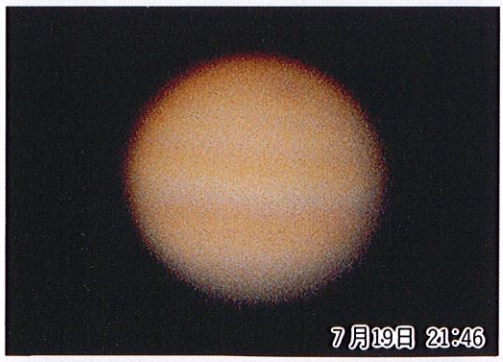
池田町のかずら橋あたりで見たものは、葉の切れ込みの階層が2段で、ハーブの「チャービル」そっくりです。でも、まさか、ハーブが自然に生えているとは考えられません。

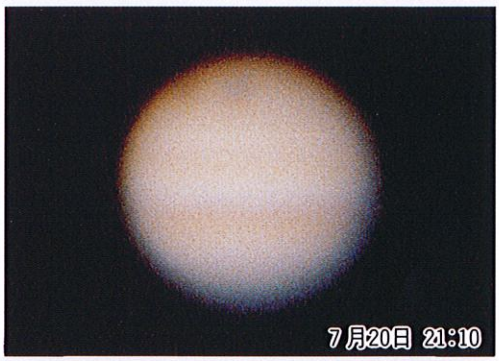
また、すぐ近くには、階層が3段のものもありました。図鑑によると、これで茎に斑点があれば「ドクニンジン」という、食べると中毒を起こす種なのですが、幸い（？）斑点はなく、他の種のようでした。

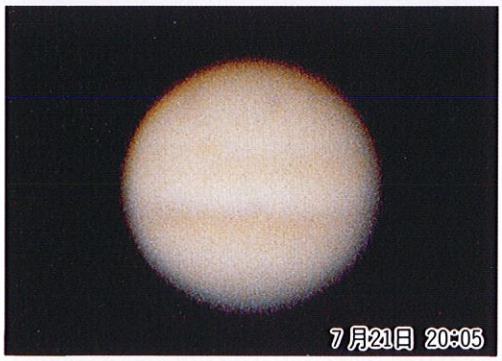
それにしても、この小さな白い花の群生、去年まではあまり目にしなかったように思うのですが……これも、久しぶりの大雪のせいだったのでしょうか？

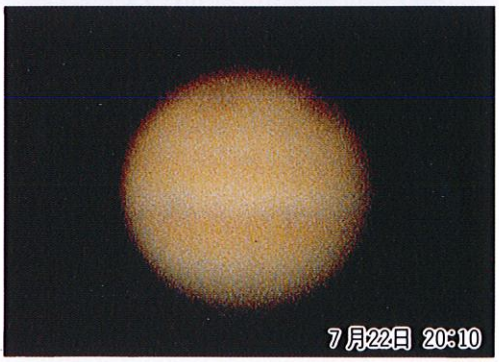
（西野春喜　ナチュラリストNo.1386　福井市）

ネイチャー フォト





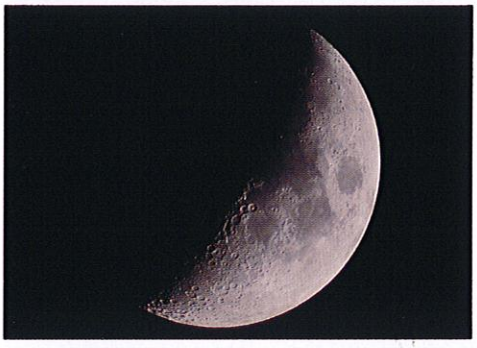




彗星が木星に衝突

小口径の望遠鏡では見えないという予想に反して、シューメーカー・レビー第9彗星が木星に衝突した痕跡が見えて感激しました。（1994年7月19日～22日　横川秀紀）

望遠鏡で月を見た



月を目で見ただけでは、ただ光っているように見えます。けれど、望遠鏡で見ると、クレーターが見えます。倍率を上げると、クレーターが、よりはっきりと見えます。

月を視野に入れるのは難しいです。でも、センターの先生やお父さんにあわせ方を教えてもらってやってみたら、あわせられたのでうれしかったです。

月の形がだんだん変わっていくのがおもしろくて見るようになりました。今、使っている望遠鏡は借りているので、自分の望遠鏡がほしいです。

観察棟にもときどき行きます。センターの望遠鏡だと、借りている望遠鏡よりも月が大きく見えるのでとてもいいからです。

（伴　祐樹　小学校５年生　ナチュラリスト No.844　大野市）

幸せな気分にひたったネイチャーゲーム

～ナチュラリストリーダー養成講習会に参加して～

初めてネイチャーゲームを体験し、こんなにも楽しく遊びながら自然のしくみなどを学んでいけることに感心しました。押しつけや教えられるのではなく、興味を自然のうちに持てるようにゲームが組まれているのにも感心しました。

朝のさわやかな空気の中で、目を閉じてさまざまな音を聞くゲームでは、実にさまざまな音が耳に入ってきました。それらは、話などをしている時には、全然聞こえなかったものばかりです。

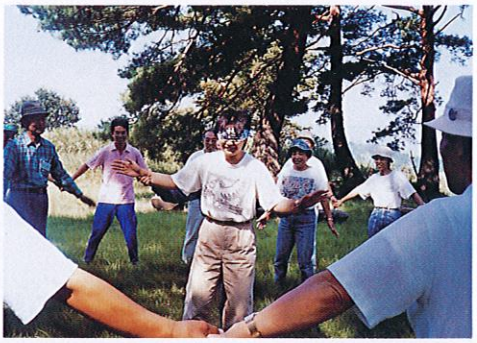
また、ゲームに入る前のアプローチの仕方や参加者一人ひとりを見る講師の大島順子先生のきめ細かな心くばりには、目をみはるものがありました。

夜、星空の下で、ろうそくの火を囲んでみんなの希望や感動をわかちあう輪の中。〝あ～しあわせ〟

帰ったら留守番してくれている夫と子ども達にカンシャ！カンシャ！

（田代美津子　ナチュラリストNo.160　敦賀市）

ゲーム「木の葉のカルタとり」



ゲーム「コウモリとガ」

開発される山々

梅雨が明けたので、さっそく山登りをしました。

暮見の林道を10kmほどすすんだ所に駐車場があり、赤や黄色の夏草が咲いていて心を和ませてくれました。左の方に林道がまだ続いているようなので、もう少しそのまま車を走らせました。中の平小屋の下を通ってしばらく行くと、林道は終点になり、ここから登山します。

急な登りの道を汗をふきふきひたすら登りつめると、時々サーッと涼しい風が吹いてきました。

「ああ、この風。これがあるから山に登るんだ。」と主人は言います。何度も呼吸を整え、休けいしながら頂上をめざしました。

山頂近くの小さなほこらは、がっしりつくら

れており、横には太い銅線がかけられていました。

山頂からのながめは、期待したとおりでしたが、ガスのかかった山は、どれが白山か経ケ岳かはっきりしないので残念でした。

50mくらい下の山はだは、けずられており、トラックやブルドーザーの作業する音が響いていました。深山幽谷の気分は消され、現代レジャーのための山に変わりつつあるのをまざまざと見せつけられました。山が泣いているようです。

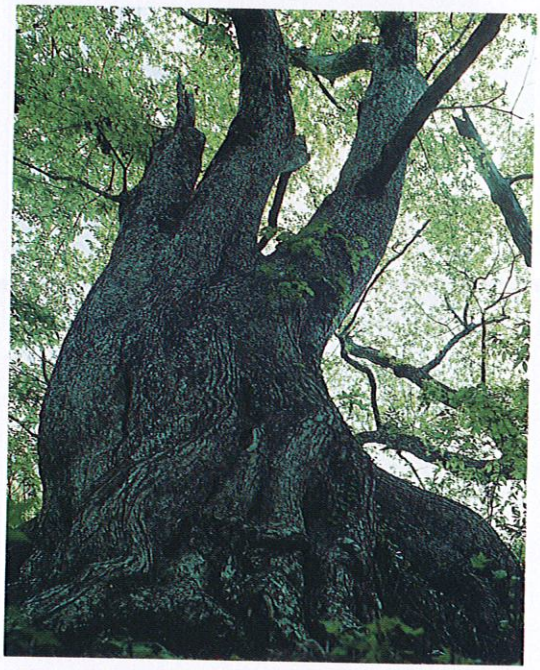
また、勝山に入った時、山頂近くで雪が光っているように見えたのは、山はだの土砂くずれを防ぐビニールシートが、太陽の光に照らされていただけだとわかり、がっかりしました。

帰りは、法恩寺大野線の林道を走りました。山の中腹をぐるぐるとまわりながら下りていくと、大きな2本の角を持つカモシカに出会いました。「おや、こんにちは。ちょっと待って。」と言ってカメラを持った瞬間、「はい、さようなら。」とさっと逃げられてしまいました。カモシカが下りた所へ行ってみると、夏草がおいしげる深い谷でした。「おーい」と呼んでも、1本の草も動いていませんでした。誰も通らないと思って、遊びに出てきたのでしょうか。何だかすまない気がしました。

開発されゆく林道を走りながら、カモシカたちのすむ所がなくならないような心くばりを願っている身勝手さを反省しました。

（山本きみ子　ナチュラリストNo.456　武生市）

ネイチャー フォト



ミズナラの巨木

女神川の源流、がらり谷の奥にミズナラの巨木を発見しました。胸高の周囲を測定すると、なんと750cmもありました。樹高は20mもあるでしょうか。根元には、大きな板根があり、幅120cm、長さは8mもありました。しばらくの間は木肌をなで、枝張りの豪壮さに感嘆しきっていました。

（1994年5月23日　松村　敬二）

★☆★

センターだより

ヒシの実食べて縄文人の気分になったよ

8月21日の北潟湖の自然観察会は、なんと40日ぶりの雨！　しかも、開始時には次第に雨足が強くなり、終了後にやむという最悪の状況での実施となりました。

それにもかかわらず、参加者はクリのような味のヒシの実に感激。子ども達は雨なんか気にせず、水生動物を捕まえて大喜び。その熱意に圧倒されました。

でも、観察会は、やっぱり晴れた日がいいですね。今後も、こりずに来て下さい。

'94夏の特別企画「夜の動物を観よう」

8月13日、自然保護センターの自然観察小屋に設置してある夜間用カメラを使って、観察会を行いました。

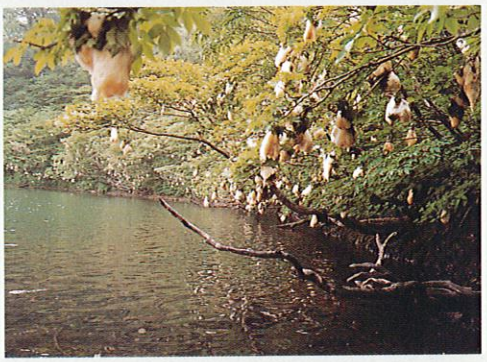
あいにくの雨で、動物がでてくるか心配されましたが、タヌキの家族やアカネズミなどが観察できました。かわいい子ダヌキが餌を食べたり、親に甘えるしぐさに参加者は喜んでいました。

満天の星空　～8月3日　天文教室～

今回の天文教室では、環境庁主催のスターウオッチング・ネットワークにも参加しました。参加者の感想をひろってみると……

- 空をちらっと見ただけで、思わずつばを飲み込むスターパニックでした。
- 天の川もよく見えました。とっても美しい夜空で、きっと空気がきれいなのでしょう。
- 肉眼で見えない小さな星（暗い星）が双眼鏡で見ると、とてもはっきり見えたので楽しかったです。流れ星も6個見ました。
- 六呂師でも山の稜線付近は街灯が反射して明るく、「光害」というのがよくわかりました。

ネイチャー フォト



夜叉ケ池のモリアオガエルの卵
（1994年6月26日　宮下政義）

目　次

表紙……文・写真……杉　本　剛　士……1
狩人蜂の生態……室　田　忠　男……2
久々子湖の秋……上　木　泰　男……4
タケ雑考……八田七郎右ヱ門……6
ツキノワグマの追跡調査……大　迫　義　人……7
リーダーのプロフィール（柴田亮俊）……8
ウオッチング福井　ナチュラリスト通信……9
ネイチャーフォト
センターだより……11

☆この冊子は福井県自然保護基金によって作成されたものです。

FUKUI NATURE GUIDE 森遊（しんゆう） 第13号

〈Vol.5(2) 1994〉

発行日　1994年9月30日
発行者　福井県自然保護センター
〒910－01
福井県大野市南六呂師169－11－2
TEL 0779－67－1655
FAX 0779－67－1656
印　刷　㈱松　浦　印　刷　所